

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホーム すてきだね (1F)		
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年2月13日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2011\\_022\\_kan=true&JigyosyoCd=0172901225-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0172901225-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・理念の通り、素敵で笑顔の絶えないこの家で、個人個人のペースに合わせ、皆さんの今を大切に考え支援している。
- ・その人らしい過ごし方を尊重し、いつも笑顔の絶えない生活を支援している。
- ・その人らしく笑顔で毎日を過ごせる様、家庭的な雰囲気職場作りを目指している。
- ・入居者さんの安心安楽に努め、優しく、時には厳しく、家族の様なつながりを持ち見守りを行なっている。
- ・家庭的な雰囲気です明るい職場、入居者さん家族とのコミュニケーション作りにも積極的に組んでいる。
- ・入居者さんがいつも笑顔で過ごせる様に家族の様に見守り、つながりを大切にしている。
- ・入居者さんとの信頼関係が築けるように日々の関わりを大切にしている。スタッフも笑顔で居られる様に心掛けています。
- ・2ヶ月に1度の大正琴のボランティア訪問をして頂き楽しんでもらっている。
- ・母体である山下整形外科PTの協力の下リハビリに通い体力低下の予防を行なっている。
- ・皆さんが楽しんで頂ける催しを色々計画している。(バスを利用した外出・お祭り・花火大会等)
- ・スタッフが協力的で、希望の休暇が取れるように努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成25年1月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- <職員の研修の機会の確保>**  
職員一人ひとりのモチベーションの維持や研修意欲の機会の確保の為に、日々の疑問や技術の向上に活かせるように外部研修への参加の機会の確保や研修後に他職員への報告、内部での要望に応じた研修会の開催で実際のケアサービスに活かせるように職員の段階に応じた研修会を実施している。
- <認知症に関する理解や啓発への取り組み>**  
毎月「すてきだね通信」を発行して、一口メモで認知症の症状や具体的な行動等を取り上げ、認知症に関する理解や啓発に取り組んでいる。また、担当スタッフから個々の利用者の近況の生活状況や健康状態などきめ細かく家族等に報告し、家族と職員が協力関係を築けるように取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します		
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域で、その人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして、独自の理念を作り玄関へ掲示、パンフレットに掲載している。 新人研修の際に説明し実践に向けて取り組んでいる。	事業所独自の理念をつくりあげて、ミーティングや日常業務を通じて話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会行事への参加、ボランティアの受け入れ、ホームの行事(ほほえみ祭)の参加呼びかけを行なっている。	事業所主催の「ほほえみ祭り」を開催して、地元の人々や家族等に参加を呼びかけ交流に努めている。また、町内行事の花植え等の参加や大正琴などのボランティアの受け入れで日常的な交流に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談に乗られるように体制を作っているが、なかなか発信する事が出来ていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いを行い、サービス向上に活かせるようにしているが、行えていないのが現状でありまだまだ課題はある。	利用状況や日常生活の様子、火災避難訓練など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今後は、年6回を目安にした運営推進会議が開催できるよう課題として検討しているので、その実践に期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護高齢課、指導監査課や地域包括センターと積極的に連絡、協力関係を築いている。	市担当者や包括支援センター職員との連携の重要性を認識し、日常業務を通じて情報交換や助言を得ながら、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠及び、身体拘束は行っていない。 夜間のみ防犯の為玄関の施錠は行っている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部・外部研修会を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に学ぶ機会は設けていないが、その都度、必要と感じた時に資料を作成し防止に努めている。(信頼関係が出来ているからこそ、言葉遣いが雑になり気をつけたいといけない時がある)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に学ぶ機会はないが、職員は当たり前の事として出来ているが、難しく考えすぎているので、わかりやすく伝える工夫が必要と考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分に行っているが、その場限りで、しっかり理解・納得を得られているかは、完璧ではない様に思える。家族により受け取り方や理解の仕方が違うので今後、もっと分かり易いものが必要になってくるのではないかと感じている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置している。 すべての職員が意見を聞ける体制に努めている。意見があれば、反映するように努めている。	家族や来訪者等が職員に意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置している。また、苦情等の申し出先も掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常、何でも言える様な関係を築いている。 提案があれば、その都度反映できるように努めている。	職員とのコミュニケーションを大切にしながら、職員の意見や要望、提案を運営に反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場管理者より、個々の実績報告を受け状況を把握し査定、希望の休日や賞与にて反映している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加、勉強会を設け取り組んでいる。 出来ない場合は、その都度アドバイスを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域包括センターの勉強会に参加し交流を図っている。 職員の交流の場を設ける事は今後の課題と考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の前に話し合いの機会を持ち、本人との面談を行い、ご家族等から情報を得て、信頼関係を築けるように努めている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に話し合いを行い情報を共有し要望を聞き、良い関係を築けるように努めている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、家族の要望を十分に見極め判断し対応するように努めている。			
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごしているという気持ちを忘れずに、支えあい、良い関係を築けている。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期段階で共に協力し、本人を支援していく事を話し合い同意を得ている。 家族との関係は良好で、共に協力し合って毎日の生活を送っている。			
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが、入居者本人が徐々に出来なくなってきた。 馴染みの場所や人を忘れないように、日常の会話に話題の提供を行うように努力している。 家族の協力が第一だと考える。	入居年数と共に身体機能の低下が見られるが、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう、家族と協力しながら支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立させないように声掛け等を行なっている。 最近は居眠りをしている方が多く、状況を見ながら、一人ひとり状態に応じて対応している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にはいつでも対応できる体制は出来ている。 今までに契約終了後の相談等の事例は無い。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から本人の思い等情報を得て、アセスメントを行っている。認知症が進み、思いや希望を聞くことが難しくなっているため、直接介助しているスタッフが思いを汲み取れるように努力している。	アセスメントを通じて生活歴を把握し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を得て、把握に努めている。最低限以外、自由に生活して頂ける様に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日様子確認、日頃の何気ない行動を注意し確認して、心身状態の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いは少ないが、家族の要望を聞き、現場スタッフ全員でアセスメント、モニタリングに意見を記入して、ケアマネがまとめ、スタッフの意見を反映し入居者の現状に即したケアプランとなっている。変化時は、暫定プランを作成し様子を見ている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見や要望、モニタリングを通じて意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し情報の共有は行なっている。時々情報が伝わらない事もある。問題が起きた時はケアプランの個別見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である、山下整形外科でのリハビリの活用。 調剤薬局との連携で必要備品の購入等。 柔軟な支援体制は出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事参加や、地域の季節の催しへの参加、外出を好まない方が多くなって来ており、出掛けないで楽しめる事を探し提供している。ボランティア等。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との関係は良い。 家族の希望があれば、望みの病院の受診してもらっている。 必要に応じて往診にも来てくれる体制が出来ている。	受診は、本人及び家族等の希望するかかりつけ医となっている。また、協力医療機関との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を共有し適切な対応を出来る様に支援している。 日常の些細な事でも報告するようにしている。 必要に応じて、受診の指示や、対応の指示をもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的に様子を見に行き、家族より情報を得て、早期退院に向け支援している。 入院した際に、病院関係者と話をし、状況に応じてですが、なるべく早く退院出来るようにお願いしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要になった場合は本人と家族の思いを最優先に考え、医者、看護師と相談し対応を判断し、出来ると判断した場合は、チームとして支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながらターミナルケアを実践している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会の受講。 今後も、受講していないスタッフを対象として受講の予定。 緊急マニュアル参照。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。地域への連絡体制の依頼もしている。	年2回の火災避難訓練の実施や救急救命の訓練も実施し、緊急時に速やかに対応できるようにさらなる取り組みも予定している。また、スプリンクラー等設備の定期点検や地域との協力体制構築の取り組みをしている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけて対応している。プライバシーを考え、自分に置き換え考えるようにしている。信頼関係が出来て柔軟な言葉使いになる場合もあり、定期的なミーティングが必要と考えている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉使いがないよう言葉かけ等に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々声を掛け希望を聞くように働きかけているが、中々思いや希望は聞かれない。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援しているが状況により、都合を優先する事もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは綺麗で居られる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを負担にならない方と一緒にやっている。四季を感じられる食品(とうきびの皮むき、枝豆の処理等)は皆で行うようにしている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や後片付け、食事等職員と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し把握している。摂取の少ない方には飲んで頂ける様に工夫し支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、歯磨きを行っている。声掛けが必要な方へは必要な介助も行っている。就寝時入れ歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用しパターンを把握。必要な時、素振りがある時は声掛け誘導している。トイレ誘導は必ず行っているが、リハビリパンツや尿取りパットは必要不可欠になって来ている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄やおムツを使用しない自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品の活用等で個々にあわせて支援してる。最近はオリゴ糖の使用も効果的。個々に応じて、下剤の使用も行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では希望通りの入浴は難しく、職員の都合にあった時間帯の入浴になっている。その日に入りたいと希望があった場合、希望を聞けるようにしている。入浴拒否の方にも、無理には勧めていない。	一人ひとりのタイミング、生活習慣に応じて週2回の入浴を目安に支援している。また、拒否の強い本人にも、個々に沿った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はロビーのソファで自由にくつろげるようになっている。自室での休息を望まれる方には、希望通りにしている。夜間の睡眠に支障のない様に、声掛けも行っている。夜間は、一人ひとりの状況に応じてDrと相談し薬を服用している方もいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬一覧表がファイルされており、いつでも確認出来る様にしている。新しく処方された薬があった場合は、服薬後の状況を十分気を付けて観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	2ヶ月に1度の大正琴のボランティアの受け入れや、レクを行い、楽しみを作っている。一人ひとり楽しめるレクを順番に行っている。茶碗拭き等できる事を役割として行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力は必須。近場での散歩や日光浴など行っている。冬場は、なかなか出かけるのは難しい。 入居者の介護度が上がり、段々と出来なくなってきたが、お花見や町内のレクの見学等は出来るだけ見にいけるように支援している。 今年は初詣に出かけられないと判断し、外に鳥居を作り、初詣の気分を味わってもらった。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物等戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、お花見や町内行事参加、事業所で初詣ができるように鳥居を制作するなど工夫をした支援をしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は、所持し使える環境を作っている。 現状管理できない方がほとんどになっている。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自ら電話をかけられるように、家族とも相談し行なっているが、現在は自ら電話をしたいと訴える方がほとんど居ない。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや椅子を利用して居場所を作っている。不快に感じるような物等には気をつけている。 季節感が感じられるように飾り付けの工夫をしている。	RC構造作りで安全に配慮し、広い共用空間では、ソファや椅子、テーブルが配置され一人になったり、談笑できるスペースが用意されている。また、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	置いてあるソファがいつの間にか自分専用の場所と定着し居心地の良い場所になっている。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、居心地の良い空間になっている。介護が必要になった場合も、相談しどちらも負担にならない様に工夫している。 家族の写真を飾っている。仏壇を置いている方もいる。	居室には、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれたり、家族の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせる雰囲気づくりの支援をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせ、負担にならない様に工夫し支援している。			

## 目標達成計画

作成日: 平成 25年 1月 30日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の定期的開催が出来ていない	運営推進会議定期開催	年間予定を立てる ・日程 ・内容 ・構成メンバー	1年
2	26	スタッフ間のその場だけの会話で統一した支援が出来ていない気がする	ミーティング等で意見のやりとりをする	定期的なミーティングの実施	1年
3	48・49	季節に合った外出の機会が少なくなった 入居者さんとの関わる時間を増やす	外の空気を吸ってもらおう 太陽に当たる 目でも四季を感じてもらおう みんなでレクを行う	・入居者さん皆さんが体調不良で無い際 ・出来るだけ行けたら良い ・短時間でも外の空気に触れ散歩に出かける ・お買い物に出かける時間を作る ・レクの時間を作る	1年
4	34	夜間の緊急時の対応、不安	不安を軽減出来る体制作り	・緊急時の対応方法の確認 ・勉強会の実施	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホーム すてきだね (2F)		
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者さん1人ひとりに合わせた個別ケアの実施に努めている。</li> <li>明るく楽しい雰囲気作りが心掛け、その中で生き生きとした生活が出来るよう心掛けています。</li> <li>家庭的な雰囲気の中、笑顔の絶えない暮らしを提供できるよう心掛けています。</li> <li>スタッフ間のコミュニケーションが取れており、その都度より良いケアを支援出来るよう実行している。</li> <li>若手からベテランまで各年代のスタッフがおり、男性スタッフも充実し、画一的なケアにならない様に、それぞれの長所を引き出すことが出来る環境を目指している。</li> <li>有資格者も多く、これから資格取得を目指しているスタッフもあり、仕事に対する意欲がある。</li> <li>働きやすい職場をめざしてスタッフの気づきを大切に、生かせるように努めている。</li> <li>毎月、ご家族へ通信・個人通信の発行。</li> </ul>
---

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901225-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901225-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年1月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示するなど、スタッフ一同実践している 理念に基づいて介護を行なっている 理念を理解していない。確認が必要		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の集まり・町内会の行事への参加。事業所のほほえみ祭の呼びかけ、参加などで交流を深めている。今後の課題として町内会の人ともっと交流を持てると良い。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人はまだ浸透されていない現況がある為、今後の課題である。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行なっているが、更なるサービス向上が必要		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要書類の提出などを行ない、ケアの取り組みなどを伝えている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、日中の施錠は行なっていない。 安全・防犯の為、夜間のみ施錠を行なっている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修により理解を深め、意識を持ってケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はないが、今後の課題として理解し支援できるよう努力する必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行ない、理解を得ている。不安や疑問点については、いつでも説明をさせて頂く旨を伝えている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問時にコミュニケーションを取り、意見・要望等も聞き入れている。また話しやすい雰囲気を作り、入居者さんに関わる事以外の話しも聞かせて頂いている。(愚痴など)		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフは意見や提案を伝えてくれ、反映させている。意見・提案を聞いてもらえる機会をもっと増やして欲しい。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を優遇。残業時は賃金を支払っている。長い休みなどが取りにくいのが現状。日頃から向上心を持てるよう工夫、配慮をしている。スタッフからは特別な日(正月・盆)にやりがいが出るようにして欲しいとの意見がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や内部研修の機会を設けている。参加できない場合は資料が配られる。研修参加を増やす事が今後の課題である。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流が少ないのが現状だが、研修の参加により同業者との関わりや意見交換の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの要望などを聞き、安心して入居して頂けるように努めている。初期段階では特に傾聴に努め、信頼関係を築く事に重点を置いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や不安に思っている事などを聞き、安心して任せて頂けるように解りやすくケアについて説明をする。また傾聴に努め、安心感を与える言葉掛けをし、信頼関係を築く。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の要望などを聞き、必要な支援をできるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を払い、一緒に家事などを行い、良い関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換を絶やさず、状態報告書を作成し伝えたり、状態に合わせてケアの方法を相談したりと連携して入居者さんをサポートしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご本人の事情がある方もおり、なかなか馴染みの人はいらっしゃる事は少ないが、出来る限り努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人と人との関わりの為、入居者さん一人ひとりの性格などを把握し、良い関係が作れるように工夫している。体操・食事・おやつなど皆様が集えるよう支援し、スタッフが間に入り関わりが持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に面会に行ったり、季節のハガキを送るなど行なっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴、日ごろの様子や言葉を通してご本人の希望をくみ取る努力をしている。ご家族様からも情報を得て本人本位の支援を行なっている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集、事前情報を回覧し把握に努めている。日頃の会話や関わりの中から生活歴を知り、スタッフ間で共有。支援に役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察、日々の些細な変化を見過ごすことなく現状の把握に努め、状態に合わせた支援をしている。寝たきりにならないように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度ミーティングを行ない、入居者さんの現状に即した支援を行なっている。独自のモニタリングを行い、スタッフ全員の意見を反映し、入居者さん主体の介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に細かく記入し、毎日の申し送りなどで情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんそれぞれのニーズに対応し、支援体制が出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターと協働している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との良い関係が築けており、連携が出来ている。ご本人やご家族様の希望する病院への受診も受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が出勤。些細な変化であっても情報を共有し、適切な対応や処置、受診などの指示を受けており、相談しやすい関係が出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・病院・事業所間で連携が不十分で困難事例があったが、入院時は定期的にお見舞いに行き、様子を伺い、ご家族様から情報を得ている。早期退院に向け、医療関係者、ソーシャルワーカーと情報交換し支援している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケア研修を受講している。 ご本人とご家族様の意向を尊重し、Dr、NS、管理者からの説明や対応で安心してターミナル事例2件に取り組む事が出来た。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習会を受けているが、更に実践力を身に付ける必要がある		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	定期的に避難訓練を行なっている。地域との協働体制については今後の課題である。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんの誇りやプライバシーに配慮した対応に心掛けている。親しくなり過ぎ、敬意のこもった言葉使いになっていない事もあり、改善が必要である。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができない方が多いが、ご本人の希望を引き出せるような問い掛けを行なっている。自己決定が出来るような問い掛けの工夫をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々で状況で都合を優先する場合もあるが、一人ひとりのペースを大切に出来るよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日違う服装、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの入居者さんの出来る力に合わせて食事の下ごしらえ、食後の片付けを一緒に行なっている。それぞれに合った食事形態、食器や盛り付けを工夫している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日チェックしている。入居者さんに合わせた方法で摂取して頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔洗浄を行なっている。状態によっては不十分なこともある。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン・排泄サインを把握しており、個々に合わせた声かけ、支援を行なっている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖・乳製品の利用や下剤の服用などで便秘予防に努めている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯などはスタッフの配置などの理由でホーム側で決めているが、拒否があれば無理強いせず、希望があればご本人の意思を尊重している。ゆっくりと楽しめる、気持ちの良い入浴になるよう努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に昼寝の時間を設け、希望に応じて自由に休めるように支援している。夜間は眠れるよう安心できる声かけ、ホットミルクの提供など行なっている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつでも閲覧できるようになっている。内服の増減などがあった時は、その都度、申し送りを行ない様子観察し、記録に残している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さん一人ひとりに合わせて役割をもってもらい支援している。また、個々に合わせた気分転換の支援も行なっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好きな時に好きな場所への外出は難しいが、季節ごとの外出、イベント時の外出を行なっている。重度化して来て困難な状況もある。また、ご家族様に協力して頂き、ご家族様とも外出されている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事により、混乱やトラブルになっている状況もあり、所持されていない方が多い。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の支援を行なっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けをしてきれいな空間作りに努めている。ソファ、クッション等を置き、生活観のある居心地の良い環境を作っている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所に椅子を配置したり、共用ソファで入居者さんそれぞれが居心地の良い場所を見つけ、過ごされている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真、飾り、ご本人の好み、馴染みの家具などを置いて居心地の良い居室作りを行なっている。状態に応じ安心安全な空間となるようご本人、ご家族様と相談しながら配置換えを行なっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも安全に通行できるように通路は十分な幅を取っている。安全に留意し、出来る事を出来るように修繕などを行い支援している。		

## 目標達成計画

作成日: 平成 25年 1月 30日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	親しくなり過ぎ、敬意のこもった言葉使いになっていない事もあり、改善が必要である。	目上の方だと意識する	<ul style="list-style-type: none"> <li>否定的な言葉は使わず、受け入れ、共感的な言葉を使う。</li> <li>押し付け、命令口調で話さない。</li> <li>ゆっくり落ち着いて、わかりやすい言葉で丁寧に会話をする。</li> </ul>	1年
2	34・35	定期的に救命講習会を受けているが、更に実践力を身に付ける必要がある。定期的に避難訓練を行なっている。地域との協働体制については今後の課題である。	訓練、講習に真剣に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>救命講習会を年4回行なう。</li> <li>避難訓練では様々な状況を想定して真剣に取り組む。</li> <li>地域との協働体制</li> </ul>	1年
3	13・14	外部研修への参加や内部研修の機会を設けている。参加できない場合は資料が配られる。研修参加を増やす事が今後の課題である。交流が少ないのが現況だが、研修の参加により同業者との関わりや意見交換の場を設けている。	研修への参加を増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>行きたい研修があればスタッフ自ら申し出る。</li> <li>出来る限り一人1回は研修に参加する。</li> <li>他施設との交流会を検討する。</li> </ul>	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。